



Rin Rin No.86

りんりん会報 平成 27 年 7 月発行

りんりんの会
乳がん体験者の会

- * 凛 (りん) として…自分のために！
- * 輪 (りん) として…仲間のために！
- * 鈴 (りん) として…社会のために！

先月末になって、ようやく『梅雨入り』となりましたが、蒸し暑い日が続いたり、妙に肌寒かったりと、不安定なお天気の日が続きましたね。皆さん、体調はいかがでしょう？

治療中の方は、特にこのぐずついた天気のおかげで、食欲や体力が落ちてしまうこともありますが、のど越しの良い食べ物、そして心から楽しめるもの(例えば、DVD 鑑賞や読書、お友だちとの TeaTime、プチ旅行とか)を探して、笑い気分転換で乗り切っていただきたいと思います。

りんりんの会でも、先月、会員 12 名でハイキングに出かけてきました。新緑が目にも優しく、川沿いのせせらぎの音を聞きながらの散策は、とても心地よく、身近な場所(岩出山・内川散策路と有備館のお庭や森民酒造店の昭和レトロ館見学など)でありながら、小京都の雰囲気も感じさせられ、一瞬でも日常から逸脱できた時を過ごせたように感じました。歩数計の数値も気にしながら(8000歩クリア！)の最後にご褒美の『糖分補給』(スイーツセット堪能！)でしたので、体にも心にも良い刺激になりましたよ。気分転換に皆さんも是非、機会を作って、ご体験くださいね。

《りんりん・7月8月の予定》

- ★市民病院3階会議室で開催します。
- ★参加費:300 円(資料・お菓子代)・飲み物は各自ご持参ください。

- ◆ 7月11日(第2土)10:00～CoCoRin(ココリン)情報交換会
(※20代・30代(40歳まで)の患者様が対象になります！)
- ◆ 7月25日(第4土)9:30～定例会(りんりん情報交換会)
- ◆ 8月22日(第4土)10:00～みんなで歌いましょう！
(懐かしい歌・元気が出る歌を皆さんで楽しみましょう！)



●5月30日(土)情報交換会:16名の参加!(2グループでの話し合い)

- ①グループ:仕事復帰のタイミングについて…ウィッグが外れる時期頃でもいいのでは? 体力が思ったより落ちていることもあり、無理はせず、短時間の勤務時間からでも OK してくれる職場の理解があると嬉しいし、上司等に話せる範囲で伝えておくと、休みやすいかも…。
- ②グループ:抗がん剤治療について…「副作用が必ず自分に当てはまる」と自分に暗示をかけない! 人それぞれ! って思うこと。治療を頑張っているのに、下を向いて隠れてしまうのはなぜ? 頑張った自分に拍手していいよね～! …と言うお話もありました。

●アンケートの御協力、ありがとうございました!

- ・会員の皆さんに冊子作成のためのアンケートをお願いしておりましたが、たくさんの方々から回答いただきました。皆さんのそれぞれの思いが伝わってくる回答に、スタッフも気を引きしめながら編集作業に取り掛かっております。
- ・但し、アンケート依頼文にも記載しておりましたが、ページ数の制限により、とても心苦しいのですが、全ての回答分を掲載できないこともありますので、あらかじめ、ご了承くださいと思います。

～いんりん会報に寄せてNo.21～

大崎市民病院 乳腺外科科長 吉田 龍一

医学と医療

ちょっと難しい話を。

物理学や化学、生物学などの自然科学に基づいた、あくまで科学的な基礎医学(解剖学、生理学など)の理論をもとに、人間に応用したものが臨床医学(外科学、内科学など)と言えます。ですから、医学はあくまで自然科学の分野です。しかし、医療となると必ずしも科学的とは言えません。もちろん行っていることは医学的根拠に基づいたものですが、実際にはコストや時間、システム、国の方針、病院の方針、患者の希望など様々な人間的・社会的制約の中でなされるものです。つまり、医学と医療は区別して考えなければなりません。

がん治療の難しさはまさに医学ではなく医療だからです。つまり、理論的にはこういう治療をすれば治るはずなのに、実際はさほど効き目がなかったり、思った以上に副作用がひどかったり、やってみないとわからないことがたくさんある中で最善のものを探し出す作業なのです。最善のものとは何か、それは患者が希望する結果です。「治りたい」という希望を叶える治療法、簡単に癌と診断できる検査法など。人間の欲望は尽きませんが、残念ながらがん治療において確実なことは何一つありません。

科学がこれほど進んで、多くのことが解明されてきたにもかかわらず、がんに関してはまだまだ謎が多いのは確かです。しかし、長い目で見れば、100年前、50年前、10年前に比べれば格段に進歩していることは間違いありません。

1904年にライト兄弟は飛行機を作成し人類として初めて空を飛びました。約60mの飛行だったそうです。ハルステッドが乳房切除術を発表したおよそ20年後の話です。しかし、そのわずか10年後の第一次世界大戦では飛行機による空中戦や爆撃がありました。さらにその55年後には人類は月にたどり着きました。今では飛行機での移動は当たり前です。

このような航空機の発達に比べれば、医学の発達は遅々としていると感じるかも知れません。それは、航空機はテクノロジーの発達であり、自然科学そのものではないからです。

しかし、医療もテクノロジーの進歩が無ければ成り立ちません。昨今話題になっている腹腔鏡手術もそうですし、乳がん治療の領域では、マンモトーム生検やセンチネルリンパ節生検もそうです。また、各種画像機器の進歩は我々の治療に大きな影響を与えたことは事実です。

実は、医療だけでなく、自然科学、医学の分野でもテクノロジーの進歩は欠かせません。遺伝子検索や顕微鏡などもものすごく進歩していますし、今や、コンピューターなしに研究することは不可能です。何となく基礎となる科学が解明できていない部分を、テクノロジーの発達が補ってくれる、あるいは助けてくれる部分がどんどん広がっていると同時に、多くの謎の解明にテクノロジーの発達が大きな役割を担っていることは間違いありません。やがて、テクノロジーの発達が人工知能の発達をもたらす、機械が自己増殖を始め、遠い将来、人間がコンピューターに支配される時代が来ることも懸念されるようになりました。

しかし、医療は人間相手だけに、まだまだ人間臭さが残っていて、コミュニケーションは大切であり、相手の気持ちをおもんばかったり、色んな考え方の人と接したりと、科学だけでは扱えない部分が多くあります。医療とは医学と社会を合わせたものと言え、より人間らしく生きるための手段のひとつだと思います。

いい医療者とは、科学的基礎に裏付けされた人間味あふれる人でなければならぬと感じる今日この頃です。

【連絡窓口:大崎市民病院 相談支援室 ☎ 0229-23-3311】

宮城県の「がん情報」を集めたホームページ「がん情報みやぎ」のご案内です
<http://cancer-miyagi.jp>(運営:東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室)・身近な情報が満載です。